

根いたみ、根ぐされが起きない

# 腐葉土のつくり方

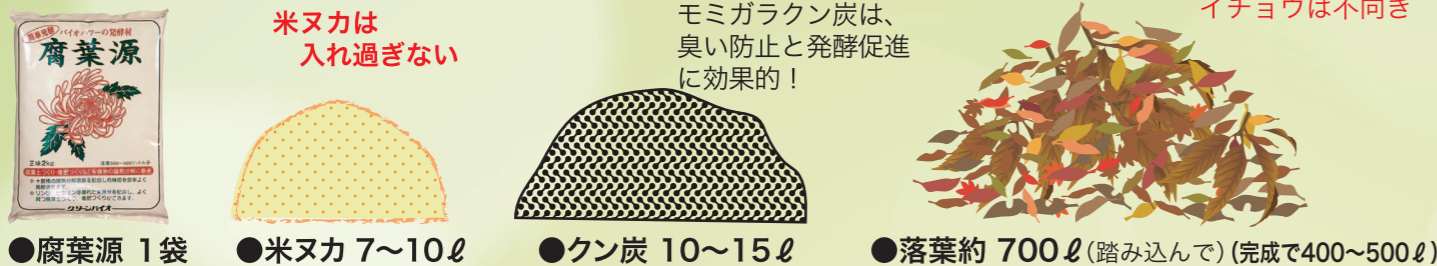
米ヌカは入れすぎない! 油カス等は使わない! .....

葉色が異常に濃くなる、巻き込むなど、チッ素過多の原因はコレ!!

## 1. 用意するもの (使用資材)

(注) 落ち葉は正確には計れないため目安です。

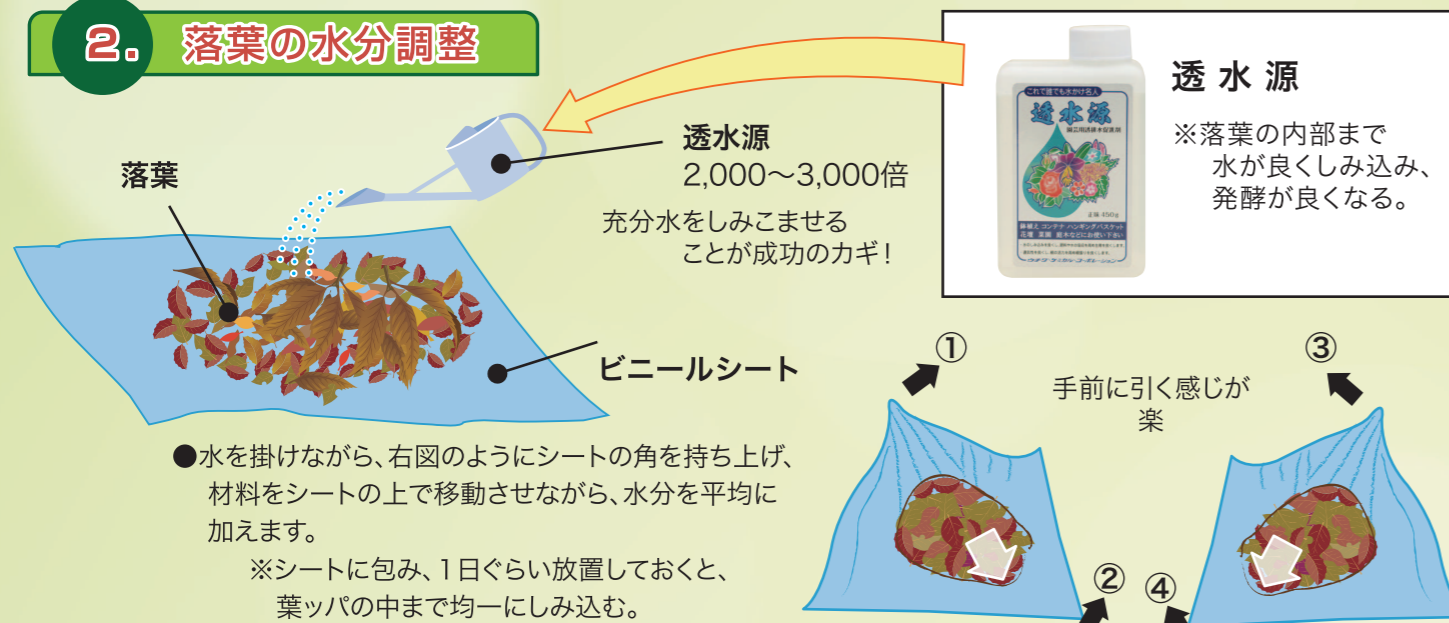
※葉肉の厚いケヤキ、カシなどの広葉樹が理想的  
マツヤスギなどの針葉樹イチョウは不向き



- 腐葉源 1袋
- 米ヌカ 7~10ℓ
- クン炭 10~15ℓ
- 落葉約 700ℓ (踏み込んで) (完成で400~500ℓ)

※製品の袋には、落葉300~400リットルなっていますが(能力向上の為)、こちらを基準にして下さい。

## 2. 落葉の水分調整



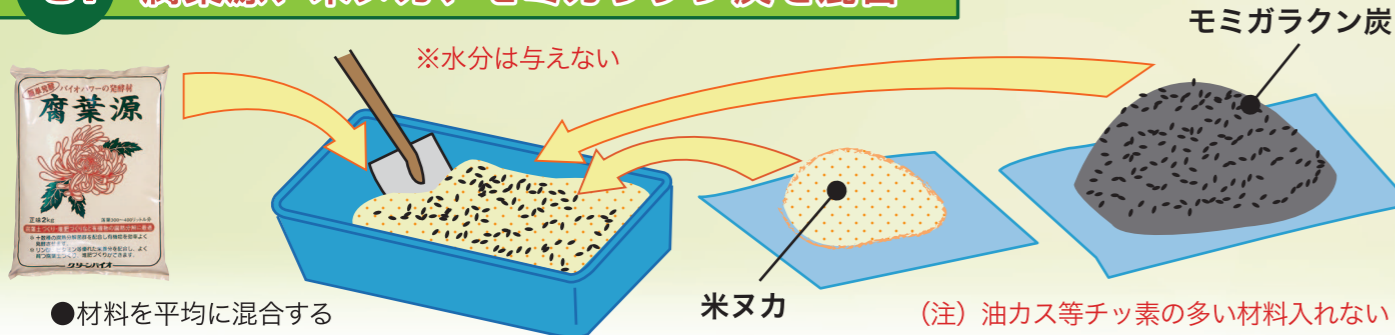
**透水源**  
※落葉の内部まで水が良くしみ込み、発酵が良くなる。

透水源 2,000~3,000倍  
充分水をしみこませることが成功のカギ!

① ② ③ ④  
手前に引く感じが楽

●水を掛けながら、右図のようにシートの角を持ち上げ、材料をシートの上で移動させながら、水分を平均に加えます。  
※シートに包み、1日ぐらい放置しておく、葉っぱの中まで均一にしみ込む。

## 3. 腐葉源、米ヌカ、モミガラクン炭を混合



※水分は与えない

●材料を平均に混合する

米ヌカ (注) 油カス等チッ素の多い材料入れない

## 4. 積み込み

- 湿らせた落葉と腐葉源 + 米ヌカ + モミガラクン炭の混合物を交互に積み、踏み込む。
- 積み込みが終わったら、乾燥防止に新聞紙5~6枚をのせる。



## 5. 切り返し

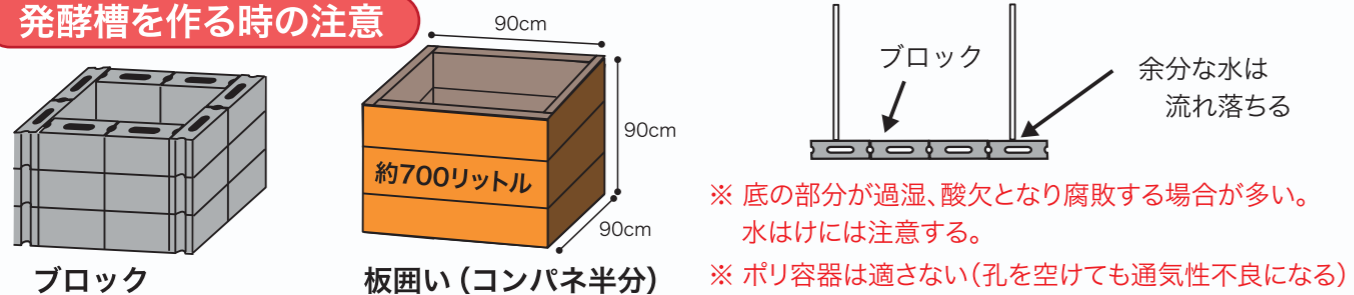
- 発熱が最高になり、下がり始める頃が適期。(1ヶ月が目安)
- 乾いている所、水分の多い所、発酵が進んでいる所、遅れている所などを、均一になるように混ぜ合わせる。
- 水は蒸発するので、不足したら補います。



## 6. 保管



## 発酵槽を作る時の注意



ブロック 約700リットル 板囲い (コンパネ半分)

ブロック 余分な水は流れ落ちる

※底の部分が過湿、酸欠となり腐敗する場合が多い。水はけには注意する。  
※ポリ容器は適さない(孔を空けても通気性不良になる)

イチ押し!! 菊づくりならコレしかない



## 腐熟促進とリン酸補給が同時にできる優れモノ!!

- 完熟腐葉土づくりに必要な糸状菌・放線菌・細菌等々十数種類を配合し、同時にリン酸補給ができる菊づくりに最適化した唯一の発酵剤です。
- 落葉、カヤ等有機物の発酵過程で発生する有害ガスや生育阻害物質の発生を未然に防ぎ、根張抜群の土づくりができます。
- 有機リン酸、カルシウム等、不足しやすい成分を補給し、有益微生物の働きにより、アミノ酸やミネラル、ビタミンなど健全生育に必要な栄養分を蓄積し、健全生育をする腐葉土づくりができます。